

飯能市地域公共交通網形成計画 実績状況（令和元年度）

令和2年6月

飯能市地域公共交通対策協議会
（事務局：飯能市市民生活部生活安全課交通政策室）

飯能市地域公共交通網形成計画の取組一覧

基本目標	施策	施策名	実績			今後の方向性			
			未実施	研究・検討	実施	継続実施	継続検討	見直し	廃止
基本目標1 地域の幹線交通としての路線バスを「まもる」	施策1：バス路線の維持と継続的な見直し	① 交通事業者との連携強化			○	●			
		② 補助金の継続			○	●			
		③ 利用実績のモニタリングによるバス路線の見直し			○	●			
	施策2：観光やイベント等による公共交通利用促進策の実施	① 観光施策と連携した利用促進			○	●			
		② 市内コンテンツを活用した利用促進			○	●			
		③ おでかけ促進と連携した利用促進			○	●			
	施策3：バス運行環境の整備	① バス停の待合環境の改善		○			●		
		② 施設を活用した待合環境の整備		○			●		
		③ 飯能駅北口ロータリー周辺の使い方			○	●			
		④ 市内道路網の課題解決に向けた取組の実施			○	●			
	施策4：需要に対応したバス路線の見直し	① 施設立地等に対応したバス路線の見直し			○	●			
	基本目標2 路線バスを身近にして公共交通を「育てる」	施策1：バス路線をわかりやすく見せるための取組の推進	① わかりやすいバス案内看板の設置			○	●		
			② バスマップの作成・配布			○	●		
施策2：市民・地元企業を巻き込んだモビリティマネジメントの実施		① まちなかのおでかけに対するモビリティマネジメント			○	●			
		② 通勤・通学者等に対するモビリティマネジメント			○	●			
施策3：マイバス意識の醸成		① バスを使ってもらう取組			○	●			
		② バスのことを理解してもらう取組			○	●			
		③ 地域におけるマイバス意識の醸成			○	●			
施策4：公共交通利用のための利便性の向上		① 乗換利便性の向上		○			●		
	② 高等学校等バス通学費補助			○	●				
	③ 利便性向上のための設備投資			○	●				
基本目標3 生活を支える公共交通手段を「つくる」	施策1：「おでかけ」を守るための検討	① 飯能市地域公共交通対策協議会の運営			○	●			
		② 地域での交通手段を導入するための仕組みづくり			○	●			
		③ 地域による主体的な運営組織づくり			○	●			
	施策2：社会資源の活用の検討	① スクールバスの混乗			○	●			
		② 送迎バスの活用検討		○			●		


基本目標 1 地域の幹線交通としての路線バスを「まもる」


施策	1	バス路線の維持と継続的な見直し				
施策名	①	交通事業者との連携強化				
実施主体	実施期間（H30～R04）					
	H30	R01	R02	R03	R04	
市、交通事業者	◎実施	◎実施	○継続実施			
R01実績						
<p>○バス事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際興業(株)と市で締結している「飯能営業所存続及び今後の同営業所の運営に関する協定書」について両者で協議し、協定書の期間を令和5年3月31日まで3年間延長した。市から同社に交付している各種補助金、スクールバス運行について引き続き実施する。 国際興業(株)をはじめ西武バス(株)、イーグルバス(株)と市とは地域公共交通対策協議会の分科会等を通して情報共有、意見交換を行っている。 <p>○鉄道事業者、タクシー事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> JR東日本、西武鉄道(株)については、市からの要望活動及び駅のバリアフリー事業による打ち合わせの場等を活用して情報共有、意見交換を行っている。 市内タクシー事業者に対しては、メッツアのグランドオープンに伴って観光客による利用が増加していることから、市との連携強化を図っている。 						
今後の課題					実績	
<p>○軸となる路線の維持、確保のため補助金を交付している国際興業(株)と市では今後も連絡を密にし、各路線の利用状況等について情報共有するとともに、令和5年度以降の協定書の締結等について協議する。</p> <p>○令和2年度中に同社路線沿線に食のテーマパーク「OH!!!」、名栗地区に「ノーラ名栗」がオープン予定であり、当該スポットへの輸送等について意見交換する。</p> <p>○各交通事業者と市において今後、自動運転の実証実験、MaaSの導入を含めて引き続き情報共有、意見交換を行っていく。</p> <p>○メッツアのグランドオープンに伴い、本市への来訪者を市街地及び山間地域に誘導するため、交通事業者とより一層連携を強化していく必要がある。</p>					実施	
					今後の方向性	
					継続実施	

施策	1	バス路線の維持と継続的な見直し				
施策名	②	補助金の継続				
実施主体	実施期間（H30～R04）					
	H30	R01	R02	R03	R04	
市	◎実施	◎実施	○継続実施	○継続実施	○継続実施	
R01実績						
<p>地域乗合バス路線対策費補助金交付要綱に基づき、国際興業バス4路線に対して補助金を交付した。補助金交付により、山間地域の住民の通勤、通学をはじめ、高齢者等の通院、買い物等の移動の足を確保している。当該路線は、地域住民のおでかけの足としてだけでなく、ハイカー等の観光客の足としてもなくてはならないものである。</p> <p>○補助対象路線</p> <p>湯の沢線 名栗車庫線 間野黒指線 中藤・中沢線</p>						
今後の課題					実績	
<p>路線バスが基幹公共交通となっている地区を運行する路線バスについては、住民の移動手段としてだけでなく、市街地から山間地域の観光拠点等をつなぐ移動手段としての役割を果たしており、今後も補助金を継続し、維持、確保していく必要がある。</p> <p>しかし、補助金を交付してもなお維持が難しい路線については、利用者数の推移、沿線地域の状況等を十分に把握した上で、大幅な減便や廃線になった場合の代替案の検討も並行して進めなければならない。特に利用者数の推移の把握は必須であり、交通事業者との情報共有や意見交換を継続して行うことが重要となる。</p>					実施	
					今後の方向性	
					継続実施	

施策	1	バス路線の維持と継続的な見直し				
施策名	③	利用実績のモニタリングによるバス路線の見直し				
実施主体	実施期間 (H30~R04)					
	H30	R01	R02	R03	R04	
市、交通事業者	◎実施	◎実施	○継続実施			
R01実績						
<p>軸となる路線の利用状況について、国際興業㈱と市で情報共有をし、利用促進等の取組を行った。 ※例年、市で3月に実施しているバス路線乗込調査は、新型コロナウイルスの影響で未実施。</p> <p>■国際興業バス湯の沢線における貨客混載事業の開始（埼玉県内で初の事例） 国際興業㈱とヤマト運輸㈱が連携し、バス利用客とあわせて宅配便を載せて運ぶ貨客混載事業を開始した。補助対象路線である国際興業バス名栗方面路線の生産性向上による増収につながるるとともに、ヤマト運輸㈱の車両運行回数の減少による環境負荷の軽減が期待できる。</p> <p>○開始日 2月25日 ○実施日 平日ダイヤ運行日のみ ○対象便 飯能駅14：25発 湯の沢行（飯01-2系統） ※「尾長入口」、「上赤沢」バス停で荷下ろしをする。</p>						
今後の課題					実績	
<p>国際興業㈱と市の協定を更新したことにより、令和2年4月1日から令和5年3月31日までの3か年の飯能営業所の存続と営業所管内の運行は確保することができている。一方で、協定の中の項目では「廃止、減回もあり得る」としているため、利用状況によっては協定期間中に更なる輸送力調整が行われる可能性がある。</p> <p>市内路線の中でも特に「間野黒指線」、「中藤・中沢線」、「小沢から湯の沢までの区間（名栗本線）」について引き続き利用状況を調査しながら、地域に必要なとされるかたちでの移手段について地域住民と検討を進めていく必要がある。</p>					実施	
					今後の方向性	
					継続実施	



施策	2	観光やイベント等による公共交通利用促進策の実施				
施策名	①	観光施策と連携した利用促進				
実施主体	実施期間 (H30~R04)					
	H30	R01	R02	R03	R04	
市、地域、交通事業者	◎実施	◎実施	○継続実施			
R01実績						
エコツアー等の観光施策と連携したバス・鉄道の利用促進を以下のとおり実施した。						
<p>お散歩マーケット（南高麗地区）</p> <p>○お散歩マーケット（春）</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施日 5月5日 参加者 1,160名 臨時便 往路19便、復路23便 <p>○お散歩マーケット（秋）</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施日 11月17日 参加者 803名 臨時便 往路16便、復路16便 		<p>わくわく名栗クラブ事業（名栗地区）</p> <p>○「わくわくNAGURI通信（第8号）」の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> 配布 国際興業バス車内に吊り下げほか 内容 バス停付近の名所の紹介 <p>※【中止】「名栗でわくわく！親子で川遊び体験」</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施日 7月7日（予定） 申込者 242名（豊島区、狭山市、入間市等） 				
<p>原市場地区公共交通を守る会事業（原市場地区）</p> <p>○神社ヨガ体験&健康フレンチの旅</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施日 9月29日 参加者 20名 会場 星宮神社（赤沢）ほか 		<p>その他イベント、取組</p> <p>○第9回名郷味市（6月16日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 名栗地区の名郷で開催、屋外イベント等を実施 <p>○第20回名栗ふるさとまつり（10月20日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 名栗地区の「やませみ」周辺で開催、屋外イベント等実施 <p>○交通事業者向け事業説明会・意見交換会（2月7日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明者 ㈱ムーミン物語 ㈱ピククルスコーポレーション ㈱Wonder Wanderers 				
<p>路線バス途中下車の旅（第二区地区）</p> <p>○上水道の遺構と吾妻峡と勝軍地蔵をたずねて秋を満喫</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施日 10月29日 参加者 8名 内容 吾妻峡等の地域のスポットを路線バスで巡る 						
今後の課題					実績	
各地区において、地域住民が主体となって利用促進事業を実施している。お散歩マーケット、川遊び体験は毎年継続して開催されており、事業の認知度、参加者の満足度ともに高く、市内外から多くの参加がある。今後も担い手である地域住民の負担を考慮しながら、市から必要な支援を継続し、地域主体による利用促進の継続を図っていく。					実施	
					今後の方向性	
					継続実施	

施策	2	観光やイベント等による公共交通利用促進策の実施			
施策名	②	市内コンテンツを活用した利用促進			
実施主体	実施期間（H30～R04）				
交通事業者、 地域、市	H30	R01	R02	R03	R04
	◎実施	◎実施	○継続実施		
R01実績					
<p>「MOOMINVALLEY PARK Ticket & Travel Pass」の発売 市内交通事業者及び㈱ムーミン物語が連携して、ムーミンバレーパーク入園券、西武鉄道1日フリー乗車券、飯能駅または東飯能駅からパークまでの往復バス乗車券の3点がセットになった企画乗車券を訪日外国人向けに発売した。</p> <p>○概要 ・西武線全線1日乗降自由（多摩川線を除く） ・バス「飯能駅北口」または「東飯能駅東口」～「メッツァ」間の1往復 ・ムーミンバレーパーク入園チケット（乗り物券などは別途） ※乗車日当日に限り有効</p> <p>○発売額 大人：2,700円、小児：1,600円</p> <p>○期間 7月20日から通年</p> <p>○対象 訪日外国人観光客</p> <p>○発売 西武鉄道㈱、㈱ムーミン物語、イーグルバス㈱、国際興業㈱、西武バス㈱</p>					
					
今後の課題					実績
<p>○メッツァのグランドオープンに続き、令和2年度には国際興業バス沿線に㈱ピックアップコーポレーションによる食のテーマパーク「OH!!!」、名栗地区の農林産物加工直売所「やませみ」周辺一帯に「ノーラ名栗」が開業予定である。幅広く利用者を獲得するためにも、民間の集客施設と連携した企画について検討していく。</p> <p>○「ヤマノススメ」には根強いファンがいるため、さらなる利用促進につなげるため、ファンをターゲットにしたイベント等の企画について研究していく。</p>					実施
					今後の方向性
					継続実施

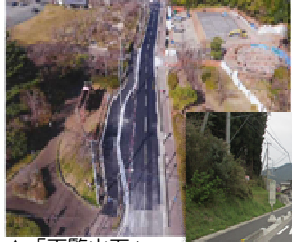
施策	2	観光やイベント等による公共交通利用促進策の実施			
施策名	③	おでかけ促進と連携した利用促進			
実施主体	実施期間（H30～R04）				
地域、市、 交通事業者	H30	R01	R02	R03	R04
	◎実施	◎実施	○継続実施		
R01実績					
<p>市内の一部公共施設では、施設の最寄りの停留所の時刻表を施設内に掲示すること、冊子に使えるバスの案内を掲載することにより、施設利用者に対して路線バスの利用を案内している。また、イベント等の周知記事に開始時間に間に合う路線バスの案内を掲載することにより、地域を運行する路線バスの利用促進を行っている。</p>					
今後の課題					実績
<p>今後も公共交通を利用できる位置にある公共施設、商業施設等の協力により、地域の行事や地域内での買い物に路線バス等の公共交通を利用してもらえるように取組を継続し、研究を進めていく。</p>					実施
					今後の方向性
					継続実施

施策	3	バス運行環境の整備				
施策名	①	バス待合環境の改善				
実施主体	実施期間 (H30~R04)					
地域、市、 交通事業者	H30	R01	R02	R03	R04	
	○研究・検討	○検討	○継続検討			
R01実績						
<p>既存のベンチについては引き続き運用している。新たな環境整備について候補地の検討をしている。</p>						
						
△イーグルバス「靖和病院」バス停ベンチ			△国際興業バス「天覧山下」バス停ベンチ			
今後の課題					実績	
<p>今後も利用者の比較的多い主要なバス停において、快適に利用できるよう新たな環境整備について検討をしていく。設置するベンチについては、西川材の「はしらベンチ」を活用することも含め検討を進める。</p>					検討	
					今後の方向性	
△はしらベンチ					継続検討	

施策	3	バス運行環境の整備				
施策名	②	施設を活用した待合環境の整備				
実施主体	実施期間 (H30~R04)					
市、地域、 交通事業者	H30	R01	R02	R03	R04	
	○検討	○検討	○継続検討			
R01実績						
<p>乗降者数の多いバス停、交通結節点となりうるバス停等から対象箇所の検討を行っている。</p>						
今後の課題					実績	
<p>今後も、市内の路線バスの利用状況を鑑みながら、網形成計画に基づき、「軸となる路線」と「支線となる路線」の結節点を見極めて対象箇所の選定を行っていく。</p>					検討	
					今後の方向性	
					継続検討	

施策	3	バス運行環境の整備				
施策名	③	飯能駅北口ロータリー周辺の使い方の改善				
実施主体	実施期間 (H30~R04)					
	H30	R01	R02	R03	R04	
交通事業者、市	◎実施	◎実施	○継続実施			
R01実績						
<p>本市を訪れた観光客が路線バスに容易に乗り継ぎ、目的地に向かうことができるよう、飯能駅北口ロータリー内に観光スポットと最寄りバス停、バスのりばを掲載したバス案内看板を新たに設置した。</p>						
						
△観光スポット紹介 (20か所)				△バスのりば案内		
今後の課題					実績	
<p>○メッツアの観光客やハイカーにより、飯能駅北口ロータリーは時期によってバス利用者等で混雑することがある。引き続きメッツア来場者の推移を注視しながら、利用者（及び通行者）が快適にバス及び駅構内を利用できる環境を確保する必要がある。</p>					実施	
					今後の方向性	
					継続実施	


施策	3	バス運行環境の整備				
施策名	④	市内道路網の課題解決に向けた取組の実施				
実施主体	実施期間 (H30~R04)					
	H30	R01	R02	R03	R04	
市	◎実施	◎実施	○継続実施			
R01実績						
<p>国際興業バス路線の「尾長入口」バス停のバス停車帯、「名郷」バス停の転回場について、現在砂利敷きになっており、バス利用者の安全確保等の観点からコンクリート舗装の要望がバス事業者から市に提出された。舗装工事について検討を行うとともに、当該バス停付近の地権者等と調整を行った。</p>						
						
		△「尾長入口」バス停付近		△「名郷」バス停付近		
今後の課題					実績	
<p>○阿須小久保線と市道1-5号線との交差点に右折帯を設ける予定であり、それにより周辺の交通環境の改善につなげる。 ○「尾長入口」、「名郷」バス停周辺において、今年度中に舗装工事をする予定である。</p>					実施	
					今後の方向性	
					継続実施	

施策	4	需要に対応したバス路線の見直し				
施策名	①	施設立地等に対応したバス路線の見直し				
実施主体	実施期間 (H30~R04)					
	H30	R01	R02	R03	R04	
交通事業者、市	◎実施	◎実施	○継続実施			
R01実績						
<p>○国際興業バス「天覧山下」(飯07系統)バス停車帯設置(下り線のみ) 昨年度実施した当該バス路線の経路変更の一環として整備した。今年度、食のテーマパーク「OH!!!」(株)ビックルスコーポレーション)の開業に伴い、更なる観光客の増加が見込まれており、バス利用者の利便性の向上や交通渋滞緩和の効果が期待できる。</p> <p>○国際興業バス「畑中」停留所 移設 地域住民からの要望を受け、「畑中」停留所の移設を行い、バス路線の運行環境の改善や利用者の安全確保につながった。</p>						
				 △「天覧山下」		
				 △「畑中」		
今後の課題					実績	
<p>○「天覧山下」バス停について、今後、上り線(飯能駅方面行)にもバス停車帯を整備する予定である。現在、天覧山、中央公園への観光等のため多く利用されており、食のテーマパーク「OH!!!」の開業後の利用者の状況を確認する必要がある。</p> <p>○国際興業バス間野黒指線について、大河原工業団地に乗入れ後、想定していたよりも利用者数は伸びておらず、工業団地会等を通して周知を行う必要がある。</p> <p>○メッツァ行直通シャトルバスについて、運行事業者3社の協力のもと円滑な運行が続けられているが、メッツァ駐車場無料開放の実施に伴うバス利用者の減少もあり、今後も利用状況の推移を見守る必要がある。</p>					実施	
					今後の方向性	
					継続実施	

基本目標2 路線バスを身近にして公共交通を「育てる」

施策	1	バス路線をわかりやすく見せるための取組の推進			
施策名	①	わかりやすいバス案内看板の設置			
実施主体	実施期間（H30～R04）				
	H30	R01	R02	R03	R04
市、交通事業者	◎実施	◎実施	○継続実施	○継続実施	○継続実施
R01実績					
<p>メツァへの観光客が多く利用する飯能駅北口のバス案内看板をリニューアルした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内マップ 観光スポットとバス路線（デフォルメ版）を表示 ・観光スポット紹介 各スポットの説明文、最寄バス停等を掲載 ・バスのりば 観光スポット別にバスのりばをまとめて表記 ・主な表示等には外国人観光客のため英語併記をした。 <p>（各観光スポット説明文の英語版はQRコードで読み込む方式とした。）</p>					
					
			 <p style="text-align: center;">△盘面（全体図）</p>		
今後の課題					実績
<p>○看板盘面の情報更新（メンテナンス）について、市及び交通事業者で行っていく（「OH!!!」「ノーラ名栗」の開業については対応済み）。また、看板の裏面の活用方法について検討する。</p> <p>○飯能駅南口のバス案内看板（西武バス使用）について、老朽化してるため対策を講じる必要がある。</p> <p>○東飯能駅にはバスの案内等が不十分であるため、バス案内看板等の設置も視野に検討を行う。</p>					実施
					今後の方向性
					継続実施

施策	1	バス路線をわかりやすく見せるための取組の推進			
施策名	②	バスマップの作成・配布			
実施主体	実施期間（H30～R04）				
	H30	R01	R02	R03	R04
市	◎実施 （改訂・増刷）	◎実施 （増刷）	○継続実施 （改定・増刷）	○継続実施	○継続実施
R01実績					
<p>「飯能市バスルートマップ」（平成27年4月作成、平成30年度一部改訂）を10,000部増刷し、市内の公共施設等で市民に広く配布した。</p>					
					
			<p style="text-align: center;">△メツァ紹介面 △地図面</p>		
今後の課題					実績
<p>○公共交通を使ってもらいやすくなるよう、市内の公共施設、商業施設等を通して市民及び観光客等の来訪者に引き続き配布していく。また、警察署と連携し、運転免許返納者に対して配付できるよう進めていく。</p> <p>○令和2年度の市内の新たな観光スポットの開業に対応するため、内容の改訂を予定している。</p>					実施
					今後の方向性
					継続実施


施策	2	市民・地元企業等を巻き込んだモビリティマネジメントの実施			
施策名	①	まちなかのおでかけに対するモビリティマネジメント			
実施主体	実施期間 (H30~R04)				
	H30	R01	R02	R03	R04
交通事業者、市	◎実施	◎実施	○継続実施		
R01実績					
<p>市広報、市HPで交通事業者による既存の各種サービスについてPRし、主に高齢者の公共交通の利用による外出の促進を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際興業バス「彩京のびのびバス」 65歳以上対象、同社の路線バス乗り放題（6か月間、税込22,000円） 					
					
今後の課題					実績
<p>○市内の公共交通の現状、各施策、サービス等について、公共交通ニュースの発行等を通して周知を行っていく。</p> <p>○国際興業バスのワンコインゾーンについて、飯能市役所ロビーのサイネージを活用すること等により、利用周知に努めていく。</p> <p>○市内の商業施設、集客施設との連携を強化し、外出を促進するための公共交通活用方策を検討する。</p>					実施
					今後の方向性
					継続実施

施策	2	市民・地元企業等を巻き込んだモビリティマネジメントの実施			
施策名	②	通勤・通学者等に対するモビリティマネジメント			
実施主体	実施期間 (H30~R04)				
	H30	R01	R02	R03	R04
市、地域、交通事業者	◎実施	◎実施	○継続実施		
R01実績					
<p>○「2019はんのう市ノーマイカーデー」の実施</p> <p>普段、自家用車で通勤（移動）する市内在勤者及び市民に対して、路線バス、鉄道その他の移動手段での通勤（移動）を意識してもらうことで、公共交通の利用に対する意識啓発を目的に実施した。</p> <p>また、市内の飲食店等に協力を仰ぎ、期間中に限り事業参加者に特典を用意してもらい、参加への動機づけ及び市街地の活性化に繋げることを目的とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 期間 12月1日～12月31日（1か月間） 協賛店 25店舗 参加者 768名 <p>（内訳）事業所698人（市内12事業所）、個人70人 期間後、参加者に対するアンケート（QRコードを活用したWEB回答）により、結果検証を行った。</p>					
  					
		△ポスター		△バス方向幕によるPR （国際興業バス）	
				△参加証（表・裏）	
今後の課題					実績
<p>○ノーマイカーデーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も市内事業所に協力を仰ぎながら引き続き実施する。 今回は、バス路線及び鉄道路線が乗り合わせている日高市と共催で広域的に実施する予定である。 協賛店について、参加者へのアンケート結果によると参加者の協賛店舗の利用が極めて少数であるため、事業内容を見直す。 <p>○市内高等学校等の生徒に対して、通学等で利用できるバスを紹介する内容での利用啓発を実施する。</p>					実施
					今後の方向性
					継続実施


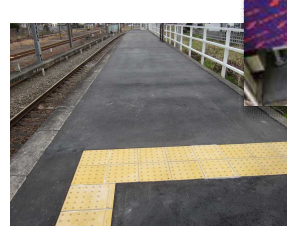
施策	3	マイバス意識の醸成			
施策名	①	バスを使ってもらう取組			
実施主体	実施期間（H30～R04）				
市、地域、 交通事業者	H30	R01	R02	R03	R04
	◎実施	◎実施	○継続実施		
R01実績					
<p>○「名栗ひなかざりきっぷ」の発売 「飯能ひな飾り展」が開催にあわせて、名栗地区のひな飾り会場に気軽に路線バスで足を運んでもらうこと、期間中の路線バス利用者を増加させることを目的に、主に女性をターゲットにして200枚限定で発売した。</p> <p>・内容 国際興業バス名栗方面行き1日フリー切符 協賛店で「いっぶくメニュー」が利用券 国際興業高速バス片道券（池袋～東京ディズニーリゾート、抽選制）</p> <p>・販売期間 2月25日～3月3日（※） 2月10日～先行予約 ・販売価格 1,600円 ・販売実績 29枚 ・共催 国際興業(株)、(一社)奥むさし飯能観光協会、飯能市 ※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、期間を短縮した。</p>					
 <p>△モデルルート △西川材の乗車券</p>					
今後の課題					実績
<p>○路線バスの利用促進を目的として、今後も同様の企画を計画する。今回は、事前準備期間が短く周知が不十分であったこと、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から事業期間の短縮及び外出の自粛がされたこと等により、販売枚数が伸びなかった。今回の結果を踏まえ、関係機関と事業内容の見直しをしながら次回の企画に活かしていく。</p> <p>○その他、事例等を研究し、関係機関と協力しながら継続して企画していく。</p>					実施
					今後の方向性
					継続実施

施策	3	マイバス意識の醸成			
施策名	②	バスのことを理解してもらう取組			
実施主体	実施期間（H30～R04）				
市、交通事業者、 地域	H30	R01	R02	R03	R04
	◎実施	◎実施	○継続実施		
R01実績					
<p>バスに乗車する不安を取り除くとともに、公共交通の利用促進を目的として、以下のとおり事業を実施した。</p> <p>○出前講座 どうする？どうなる？免許返納</p> <p>・実施日 8月20日 ・会場 飯能市総合福祉センター2階 視聴覚室 ・内容 第1部「現状を出しあって意見交換」 第2部「総合福祉センターの送迎バス」 ・参加者 42名</p> <p>○出前講座 どうする？どうなる？免許返納（8月の続き）</p> <p>・実施日 11月19日 ・会場 飯能市総合福祉センター2階 研修室 ・内容 第1部「私にとって、どうなれば免許返納が“実現”となるのでしょうか？」 第2部「飯能市の交通政策」 ・参加者 22名</p> <p>○乗り方教室・運転手体験</p> <p>・実施日 11月10日 ・会場 はんのう生活祭会場（飯能市役所駐車場） ・内容 主に親子対象、参加者に国際興業バスグッズ進呈 乗り方教室：11名 運転手体験：170名 ぬりえコーナー：64名 ・協力 国際興業(株)</p> <p>○第2回「ノリノリ！のりものフェスティバル」</p> <p>・実施日 12月8日 ・会場 所沢市航空記念公園 ・内容 バス、タクシー等車両展示、各種イベント ・参加者 約15,000名 ・主催 ダイアプラン公共交通部会 ・協力 埼玉県、関東運輸局埼玉運輸支局、交通事業者等</p>					
 <p>△はんのう生活祭での取組</p>		 <p>△「ノリノリ」！のりものフェスティバルでの取組</p>			
今後の課題					実績
<p>○市民、団体等の要請に応じて出前講座等を通して市の公共交通の現状等について理解を促していく。</p> <p>○市民の路線バス利用が進まない要因の一つとして、「バスの乗り方がよく分からない」という問題が挙げられる。今後も「乗り方教室」をバス事業者の協力のもとで開催し、バス利用を身近なものにしていく。また、市内で増加している外国人在住者に対しても利用促進を続けていく必要がある。</p> <p>○公共交通の利用促進を目的とした広域的な啓発事業について、ダイアプラン公共交通部会において引き続き実施する。</p>					実施
					今後の方向性
					継続実施

施策	3	マイバス意識の醸成			
施策名	③	地域におけるマイバス意識の醸成			
実施主体	実施期間（H30～R04）				
地域、市	H30	R01	R02	R03	R04
	◎実施	○実施	○継続実施		
R01実績					
<p>各団体からの要請により、以下のとおり実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○南高麗支部定期総会（南高麗地区） <ul style="list-style-type: none"> ・実施日 4月20日 ・内容 市の交通政策及び南高麗地区の移手段について ・参加者 地元自治会、民児協等の役員 36名 ○第1回原市場地区公共交通を守る会（原市場地区） <ul style="list-style-type: none"> ・実施日 6月26日 ・内容 地域公共交通網形成計画について ・参加者 同会の役員 ○わくわく名栗クラブ第4回全体会（名栗地区） <ul style="list-style-type: none"> ・実施日 12月2日 ・内容 飯能市の交通政策について ・参加者 同会の会員 					
今後の課題					実績
「公共交通は地域の資源であり、自ら乗り、育てていく」という意識を醸成するため、今後も特に名栗本線沿線の住民に対して意識啓発を行い、地域住民との意見交換を実施していく。					実施
					今後の方向性
					継続実施


施策	4	公共交通利用のための利便性の向上			
施策名	①	乗継利便性の向上			
実施主体	実施期間（H30～R04）				
市、地域、交通事業者	H30	R01	R02	R03	R04
	○研究・検討	○研究・検討	○継続検討		
R01実績					
<p>○サイクル・アンド・バスライドの視点から、国際興業バス「新寺」バス停付近の自転車置き場の管理を継続して行った。</p> <p>○パーク・アンド・ライドについては先進事例の研究にとどまり、実施に向けた検討には至っていない。</p>					
					実績
<p>△新寺自転車置き場</p> 					研究・検討
今後の課題					今後の方向性
<p>○各バス停の状況を把握し、パーク・アンド・ライドの必要箇所の状況やその実施方法等について引き続き研究、検討を進める。</p> <p>○駐輪場の整備を実施した「新寺」以外の停留所についても、サイクル・アンド・バスライドができる環境整備が必要との要望があるため、地域からのニーズ等を踏まえた上で検討を進める。</p>					継続検討

施策	4	公共交通利用のための利便性の向上			
施策名	②	高等学校等バス通学費補助			
実施主体	実施期間（H30～R04）				
	H30	R01	R02	R03	R04
市	◎実施	◎実施	○継続実施		
R01実績					
<p>○以下のとおり、高等学校等の生徒の高額な通学定期券の購入費に対する補助金を交付した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的 通学費に係る経済的な負担の軽減及び路線バスの利用促進を図る。 ・対象者 高等学校、私立中学校、特別支援学校、中等教育学校、高等専門学校、専修学校に通学する生徒の保護者であり、生徒の通学費として年間10万円以上の経費を必要とする者 ・令和元年度補助件数 79件 <p>※平成30年度補助件数 84件</p> <p>○現行の制度について、高等学校等の生徒がいる世帯に対してアンケート調査を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配付数 171 ・回収数 80（回収率47%） 					
今後の課題					実績
<p>○山間地域に在住する高校生の高額な通学定期券の購入費用については、高校生が安心して地域で生活しながら高校に通うことができるよう、引き続き補助金を交付する。</p> <p>○補助金交付対象となっている山間地域に住む高校生の数が大幅に減少している中で、アンケート結果を参考に必要な対策を研究、検討していく。</p>					実施
					今後の方向性
					継続実施

施策	4	公共交通利用のための利便性の向上			
施策名	③	利便性向上のための設備投資			
実施主体	実施期間（H30～R04）				
	H30	R01	R02	R03	R04
市、交通事業者	◎実施	◎実施	○継続実施		
R01実績					
<p>○イーグルバス㈱ 交通系ICカードサービス開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開始日 3月14日 ・対象 日高飯能路線、メツツア直通線 等 <p>○西武鉄道㈱ 駅ホーム内方線付き点状ブロック整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容 視覚障害者等が駅ホームから転落することを防止するため実施 ・整備駅 東飯能駅、元加治駅（西武池袋線）ホーム ・実施 西武鉄道㈱ ※市（県）から補助 <p>○駅ホーム声かけサポート講習会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 11月15日 ・参加者 26名 ・会場 仏子駅ほか ・内容 視覚障害者の駅ホームからの転落防止のため実施 ・開催 飯能市・入間市主催、埼玉県共催、西武鉄道㈱協力 					
					 <p>▷ICカードリーダー（イーグルバス）</p>
					 <p>△内方線付き点状ブロック（東飯能駅）</p>
今後の課題					実績
<p>○鉄道駅ホームの内方線付き点状ブロックの整備について、市内の整備対象の駅（飯能駅、JR・東飯能駅、西武・東飯能駅、元加治駅）は全て整備済となった。</p> <p>○現在、市内の「バスまちスポット」、「まち愛スポット」について、施設の移設等による修正、見直しを行う。</p> <p>○バスロケーションシステム等路線バスを利用しやすくするための設備の導入等、市民だけでなく観光客等の来訪者にも利用しやすい公共交通について研究する。</p>					実施
					今後の方向性
					継続実施

基本目標3 生活を支える公共交通手段を「つくる」

施策	1	「おでかけ」を守るための検討			
事業	①	飯能市地域公共交通対策協議会の運営			
実施主体	実施期間（H30～R04）				
市	H30	R01	R02	R03	R04
	◎実施	◎実施	○継続実施		
R01実績					
<p>○以下のとおり、飯能市地域公共交通対策協議会を開催した。（2回）</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月24日（第9回） 議事：平成30年度実績報告及び令和元年度事業計画について ほか 平成30年度の実績報告及び令和元年度の事業計画について説明し、了承された。 2月25日（第10回） 議事：「暮らしやすい地域の移動・交通分科会（案）」の設置について、公共交通の利用促進事業について ほか 地域公共交通対策協議会に「暮らしやすい地域の移動・交通分科会」を設置することについて諮り、承認された。 <p>○以下のとおり、市内バス事業者による飯能市地域公共交通対策協議会分科会を開催した。（2回）</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月23日（第7回） 議事：平成30年度実績報告及び平成31年度事業計画について ほか 11月11日（第8回） 議事：飯能駅北口に設置するバスの案内看板について、2019はんのう市ノーマイカーデーについて ほか 					
今後の課題					実績
今後引き続き、必要に応じて開催し、重要事項について審議する。					実施
					今後の方向性
					継続実施

施策	1	「おでかけ」を守るための検討			
事業	②	地域での交通手段を導入するための仕組みづくり			
実施主体	実施期間（H30～R04）				
市、地域	H30	R01	R02	R03	R04
	◎実施	◎実施	○継続実施		
R01実績					
<p>○「暮らしやすい地域の移動・交通分科会」の新設について 市内の公共交通の不十分な地域の移動手段について、交通分野と福祉分野が連携して検討、導入するため、飯能市地域公共交通対策協議会に「暮らしやすい地域の移動・交通分科会」を新設し、3月13日に第1回分科会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3月13日（第1回） 議事：当分科会設置の目的と今後の進め方について、市内の移動交通の現状と課題について ほか 委員6名（座長：福島大学 吉田准教授） 分科会の役割： 公共交通の不十分な地域の移動手段についての検討と導入 ラストワンマイルの移動手段について検討と導入 様々な施策の中から地域の実情に合った移動手段を住民が主体的に導入・確保できる環境整備  <p>○手引き「みんなで考えよう おでかけの足」（H30策定）による支援 各地区における会議等において、既に移動サービスを担っている団体及びこれから移動手段の導入を検討している団体に対して、手引きにより移動手段導入のための支援を行った。</p> <p>○「公共交通空白地有償運送支援補助金」による支援 「奥武蔵らくらく交通」を運行するNPO法人奥武蔵グリーンリゾートに対して公共交通空白地有償運送支援補助金（初年度事業、実績50万円）を交付し、運行の支援をした。</p>					
今後の課題					実績
<p>○市内の公共交通の不十分な地域における移動手段の導入について、地域住民のもとに出向き、住民が求めている運行内容について検討を進めていく。</p> <p>○手引きについて、法令改正等に対応しながらよりわかりやすくなるよう必要に応じて内容を見直す。</p> <p>○補助金について、必要に応じて支出し、公共交通空白地有償運送事業の支援をする。</p> <p>○自家用有償運送等を実施する団体のドライバーを対象に運転者講習会を開催し、安全な運行ができるよう支援を行う。</p>					実施
					今後の方向性
					継続実施

施策	1	「おでかけ」を守るための検討			
事業	③	地域による主体的な運営組織づくり			
実施主体	実施期間（H30～R04）				
地域、市	H30	R01	R02	R03	R04
	◎実施	◎実施	○継続実施		
R01実績					
<p>○以下のとおり、各地区の端末交通手段の担い手である団体の運営組織づくりを支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吾野地区「たすけあいあがの」の移動交通部会への出席し、当該団体が運行する無償の移動サービス「らくだ号」の運行支援（情報提供）を行った。（3回：4月22日、5月18日、12月16日） <p>○「飯能市介護予防・生活支援サービスの充実に関する協議体（第1層協議体）」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の介護保険サービス提供団体、社会福祉法人等からなる協議体において、主に移動・移送支援をテーマに意見交換を行った（5回：4月25日、6月27日、8月29日、10月31日、12月19日）。また、市に対して移動・移送サービスに関する提案書を提出した。 ・同協議体において、市内の移動・移送を含めた生活支援サービスを提供している団体、提供を検討している団体等を対象に「住民主体による移動・移動サービスに関する研修会」を開催し、サービスを提供する際の取組方法、留意点等についての研修を行った。（2月27日開催、27名参加、講師 埼玉県移送サービスネットワーク 笹沼氏） <p>■NPO法人奥武蔵グリーンリゾートにより、公共交通空白地有償運送「奥武蔵らくらく交通」を運行した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行実績 運行回数：472回 輸送人員：580名 走行距離：3814.8km 登録者数：98名（男35名 女63名） ・運転者追加 4名（4月10日に1名、9月15日に3名） 合計10名体制 					
今後の課題					実績
<p>○依然として市内には公共交通が不十分である地域が存在し、端末交通手段の導入が課題となっている。各地区において、交通手段の確保を実現するため、担い手となる地域住民、団体等と検討する場を設ける必要がある。</p> <p>○「奥武蔵らくらく交通」について、現在、運行範囲の拡大について検討中である。今後、関係各所と調整していく。</p>					実施
					今後の方向性
					継続実施

施策	2	社会資源の活用の検討																											
事業	①	スクールバスの混乗																											
実施主体	実施期間（H30～R04）																												
市、交通事業者	H30	R01	R02	R03	R04																								
	◎実施（実証実験）	◎実施（本格運行）	○継続実施																										
R01実績																													
<p>奥武蔵小学校スクールバス一般住民の混乗制度を以下のとおり実施した。</p> <p>○令和元年度 実績</p> <p>期 間：6月3日～3月4日</p> <p>運行日数：登校151日、下校141日（うち2便運行あり105日）</p> <p>登録者数：124名（+16名）</p> <p>利用者数：延べ37名（週1.12名 ※前年度 週2.35名）</p> <p>※台風19号の影響により、一部ルート通行不可（11/25一部復旧）</p> <p>※新型コロナウイルスの影響により、3/5～当面の間運休</p>																													
					コース別利用者数																								
					<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>北川</th> <th>奥小</th> <th>東吾野</th> <th>南川</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>朝</td> <td>19</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>夕</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>22</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>0</td> <td>37</td> </tr> </tbody> </table>		北川	奥小	東吾野	南川	計	朝	19	4	8	0	31	夕	3	0	3	0	6		22	4	11	0	37
	北川	奥小	東吾野	南川	計																								
朝	19	4	8	0	31																								
夕	3	0	3	0	6																								
	22	4	11	0	37																								
今後の課題					実績																								
<p>○運行について、国際興業㈱の協力により円滑に行うことができ、大きな混乱は生じなかった。</p> <p>○利用者について、依然としてごく少数の利用者が利用している状況である。高齢者が利用しやすいよう他の事業、イベントと連携してスクールバスの利用体験ができるようなきっかけづくりが必要である。</p> <p>○台風19号（10月12日）の影響で「藤原柏木」が利用不可となり、前年比で利用者数が落ちている。</p> <p>○新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、3月5日から当面の間運休としている。今後の情勢を踏まえ、運行を再開する。</p>					実施																								
					今後の方向性																								
					継続実施																								

施策	2	社会資源の活用の検討			
事業	②	送迎バスの活用検討			
実施主体	実施期間（H30～R04）				
市、地域	H30	R01	R02	R03	R04
	○研究・検討	○研究・検討	○継続検討		
R01実績					
<p>○社会福祉協議会において、総合福祉センターが運行している施設利用者用の送迎バスの乗込調査を実施した。</p> <p>○市内事業者等が運行する既存の送迎車両の活用の可能性について検討した。</p>					
今後の課題					実績
<p>○総合福祉センターの送迎車両については、既存のバス路線等と経路が重なっている部分が多く存在し、利用者も少ない。今後、平成30年度の実態調査の結果等を加味し、今後のあり方について関係機関と検討を進めていく。</p> <p>○社会福祉法人等が所有する送迎車両を活用した地域の移動手段となるサービスの導入について、引き続き法人等と調整、検討する。</p>					研究・検討
					今後の方向性
					継続検討